福岡市自立分権型行財政改革に関する有識者会議の
3つの主要テーマの議論の全体最適化に向けての所感

■これまで3回の有識者会議の議論に参加して危惧していることがあります。
それは、「個別の設定課題について意見・アイデアを申し上げるにとどまり、
根本的な議論を起こすことなく、なんとなく収束してしまうのではないか・・・」
つまり、「問題処理」をして「問題解決」には至らないのではないかということ。

■そこで、解決に立ち向かう議論を敢えて起こしていくために、今回の有識者会議全体を通じてのキーワードとなるであろう「ガバナンス」という言葉の意味を投げかけてみます。

①私は次のシートで「全体最適を生み出す力」としてみました。

②そしてその「全体最適」とは何を持って構成されるのか、そこに潜んでいると思われる構成要素を3つ（目的×共有×行動）の「掛け算」にして因数分解してみました。

③その3つの要素が今回の3つのテーマ（市民の納得と共感、財政健全化、組織風土）においてどのような問いでもって深掘りを試みるべきかを試行してみました。

■市民も行政職員も何となく「ガバナンス」という言葉でお互いにわかったような気になるのではなく、共有のための議論を一度しっかりと行い、一緒に考える共通基盤をつくる必要を感じています。このシートがひとつのきっかけとなることを願っています。

加留部貴行

抜本的・総合的に改革すべき福岡市役所の

「ガバナンス」とは

全体最適を生み出す力

職員個々の判断基準を日常的に最適化するための力

～「目的」を「共有」して「行動」できる力 ～

		（存在意義）		（価値観）		（主体性）
全体最適の構成要素	＝	目的	×	共有	×	行動
市民の納得と共感	＝	何のための事業なのか	×	公開すべき情報は何か	×	誰がやると最適なのか
財政健全化	＝	何のための収支なのか	×	どの政策を優先するか	×	権限と責任は自律的か
組織風土	＝	何のための組織なのか	×	何を大切に考えるのか	×	意思決定は誰がするか